

11 共通教科 家庭

<目次>

1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」

P 1～2

2 「指導と評価の年間計画」

○生活デザイン

P 3

3 「単元ごとの指導と評価の計画」

○生活デザイン

P 4～5

○科目の目標

○科目の評価の観点及びその趣旨

○内容のまとめごと

□目標

□評価規準

○単元ごと

□目標

□評価規準

□各授業時間ごとの主な内容

□授業指導案例

0 I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨

…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」…内容のまとまりごとに4観点別に示した目標、評価規準

- ・内容のまとまりごとの目標 …学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

○単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標 …実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
- ・単元ごとの評価規準…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

○各授業時間ごとの具体的評価規準と方法

- ・各授業ごとに単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの
- ・本時の目標…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法 …評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

□単元名：○○○○

□単元の目標

○○○○○

□各授業時間ごとの指導と評価の計画（例）

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体の評価規準				評価方法等
				関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	技能	知識・理解	
・学習内容 の主な項目を記載								・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

II 指導と評価の年間計画(生活デザイン) <例>

科目名:生活デザイン 学科:〇〇科

岐阜県立 〇〇 高等学校

目標 【学習指導要領】	人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を体験的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解	
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活と環境、衣食住などに関する知識や技術を生活の中で実際に活用できるように体験的に習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。そのためには、生活をする上での様々な課題を主体的に解決できる能力の育成を目指して、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を充実すること。							
月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	ワークシート 学習態度 定期考査			
4 5 6 7	1編 人とのかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族	1 自分を見つめる	1	・現在の自分を見つめ、自分らしい生き方を踏まえた生活設計について考えようとしている。	○			
		2 自立した生き方、ともに生きる人生	1	・人生のライフステージにおける課題を知り、自分や人の一生についての考えをまとめることができる。	○	○		
		3 共に生きる家族	1	・家族・家庭に関する課題・問題点をまとめ、現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深めて発表することができる。	○	○		
		4 家族に関する法律	1	・家族に関する法律についての知識を身に付けている。			○	
		5 私たちの生活を支える労働と生活時間	4	・生活にかかわる労働の意義や労働環境について理解できる。			○	
	1編 人とのかかわって生きる 第2章 子どもとかわる	1 子どもを知る	2	・自分の子どもの頃を思い起こしながら、子どもの世界に興味・関心をもち理解しようとする。	○	○		
		2 発達の子ばらしさ	2	・子どもの心身の発達について理解している。			○	
		3 子どもの生活	4	・子どもを取り巻く環境や子育ての環境について課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。	○	○		
		4 親になる	4	・子どもと触れ合う体験学習を通して、子どもを生み育てる意義や親子関係の在り方について、興味・関心をもち発表できる。			○	
		5 すこやかに育つ環境	3	・子どもの発達段階における子どもを取り巻く人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解している。			○	
	1編 人とのかかわって生きる 第3章 高齢者とかわる	1 高齢社会に生きる私たちの暮らし	2	・高齢社会の現状と課題について、情報を収集・調査・研究し、問題点を把握し、課題解決に向けて考えをまとめている。	○	○		
		2 高齢者を知る	2	・高齢者との触れ合いを通して、高齢者の心身の特徴や生活について理解を深めている。			○	
		3 高齢者の自立のために私たちができること	4	・日常生活における基本的な生活動作の介助方法を身に付け、地域社会の役割や地域福祉の重要性について理解している。			○	
		4 豊かな高齢期を迎えるしくみ	2	・高齢期における社会的な制度・しくみについて理解している。				○
	1編 人とのかかわって生きる 第4章 社会とかわる	1 支え合う暮らしとは	2	・生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみについて意欲的に理解しようとしている。	○	○		
2 私たちの社会福祉		4	・現在の社会福祉の状況や社会保障のしくみについて理解し、生活課題と関連させながら考えることができる。			○		
3 地域社会の一員としてのボランティア		4	・地域社会の一員としての自覚をもち、ボランティア活動に主体的に参加し、振り返りによって自分ができることは何かを考えて発表している。			○		
選択実習	子どもとふれあう		・子どもとふれあう施設実習を通して、子どもとコミュニケーションを図るための留意点を考え接し方を身に付けることができる。	○	○	○	○	
選択実習	高齢者とのコミュニケーション		・高齢者とふれあう実習を通して、高齢者理解を深め、コミュニケーションを図りながら日常生活の基本的な介助方法を身に付けることができる。	○	○	○	○	
8 9 10 11 12	2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる	1 人と食のかかわり	1	・世界や日本の食文化、自分や家族の食生活に関心をもち、食事の意義や役割について理解を深めている。	○	○		
		2 私たちの食生活	2	・食事の意義や役割、食生活を取り巻く環境について、現代の食生活の課題が理解できる。			○	
		3 栄養と食のかかわり	6	・食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点による知識を深めている。			○	
		4 食品の選び方と安全	2	・健康生活を送るための食品の選び方、食の安全確保について理解し、実際の食生活に生かすことができる。			○	
		5 食事の計画と調理	18	・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識をもとに献立を作成し、調理実習を通して、日常生活の基礎的な調理技術を身に付け、後片付けまでの一連の動作を計画し実践できる。			○	
		6 これからの食生活を考える	4	・現在の日本の食生活に関する情報収集や調査から課題を明確化し、解決方法について、自分の考えをまとめて発表することができる。			○	
	選択実習	食生活のデザインと実践		・地域の食文化に関心をもち郷土料理の実習を通して、伝承されてきた調理技術を身に付けることができる。	○	○	○	○
2編 生活をつくる 第2章 衣生活をつくる	1 人と衣服のかかわり	1	・世界や日本の衣文化、民族としての和服に関心をもち、衣服の役割について理解を深めている。	○	○			
	2 衣服の素材	2	・衣服材料の性能と特徴について、実験により科学的な知識を身に付けている。			○		
	3 衣生活の管理	4	・衣服の選択・購入・管理について基礎的な知識を理解し、適切な衣服管理ができる技術を身に付けている。	○	○	○	○	
	4 衣生活と資源・環境	1	・現在の衣生活を取り巻く状況について、自分の衣生活を振り返りながら課題を把握し、再利用の方法を考え実践することができる。			○		
	5 衣服を作ろう	20	・衣服の平面構成、立体構成を理解し、基礎的な技術を身に付け、意欲的に衣服製作実習に取り組むことができる。			○		
選択実習	衣生活のデザインと実践		・ライフステージと衣生活の変化について考える。布を用いた小物製作を通して、ミシン縫いの技術を身に付けることができる。	○	○	○	○	
2編 生活をつくる 第3章 住生活をつくる	1 人と住まいのかかわり	1	・日本の気候、風土に適した住まいに関心をもち、快適な住まいづくりに意欲的に取り組んでいる。	○	○			
	2 住まいと住まいの文化	1	・住まいの役割、機能について、地域の特徴を調査・研究したり、ライフステージや家族構成と住まいの関係について理解を深めている。			○		
	3 住まいを計画する	2	・住空間の計画において、平面図を読み取り、インテリアに興味・関心をもち、自分らしい住空間を表現することができる。	○	○			
	4 健康的な住まい環境	2	・健康に配慮した快適な室内環境の条件について、科学的な測定から理解を深めて実生活に役立てることができる。			○		
	5 安全な住まい環境	4	・安全に配慮した住まいの条件に関する知識を身に付け、快適な住まいについて、安全対策や人にやさしい住環境について考え発表している。			○		
	6 これからの住まいを考える	2	・住まいの移り変わりや文化、住生活の課題に興味・関心をもち、今後の自分の住まい方を具体的に考えることができる。			○		
1 2 3	選択実習	住生活のデザインと実践		・住宅展示見学やインテリア製作を通して、安全で快適な住まいについて考え、実生活に活用することができる。	○	○	○	○
3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える	1 消費行動と意思決定	2	・自分の消費行動について、具体的な事例を通して主体的に考え、検証することができる。	○	○			
	2 社会の変化と消費生活	4	・自分が消費者の一員であることを自覚し、購入のあり方、消費行動、消費と環境とのかかわりについて、積極的に理解しようとしている。			○		
	3 消費者の権利と責任	1	・消費者の権利と責任について理解し、現代社会の消費生活における問題点を把握し、課題解決に向けた方策を考えている。			○		
	持続可能な社会環境	1	・社会資源・環境に目を向け、情報収集や調査から知識を身に付けて、家庭生活と環境との関係について考えている。			○		
3編 消費者として自立する 第2章 経済的に自立する	1 経済のしくみを知る	2	・家庭経済、国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとしている。	○	○			
	2 ライフステージと経済計画	2	・自分の経済的自立を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適正な考えをもち、短期・長期的経済計画の重要性を理解することができる。			○		
通年	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		12	ホームプロジェクト (See) 各自の生活から問題点を見つけ、具体的な問題解決のためのテーマを設定する。 (Plan) 具体的な実践計画を立てる。 (Do) 計画に基づいて実践し記録する。 (See) 実践活動について反省・考察し、自己評価する。 ・意欲的に課題を発見し、問題解決に向けて多角的に探究する態度を身に付けている。 ・実践方法を工夫し、学習した知識と技術を活用して研究を進めている。 ・研究実践内容をわかりやすくまとめて発表できる。 学校家庭クラブ活動 ・学校家庭クラブ活動に関心をもち、学校や地域における実践活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	○

単元ごとの指導と評価の計画

□単元名 第3章 衣生活をつくる

1 衣服の機能 2 衣服の素材 3 衣生活の管理 4 衣生活と資源・環境 5 衣服を作ろう

□単元の目標

被服の着装、製作、管理などの衣生活に関する知識と技術を習得させ、衣文化に関心をもたせるとともに、生涯を通して快適で創造的な衣生活を主体的に営むことができるようにする。

□各授業時間ごとの指導と評価の計画

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	評価方法等
1 衣服の機能	衣服の機能について理解させる。	衣服の機能について保健衛生・社会面から考える。	1	①人と衣服のかかわり・各地の気候風土に適応した民族服に関心をもっている。		①日本の民族服である和服の構成がわかる。		ワークシート 貼付作品 学習態度
2 衣服の素材	衣服の素材について種類・用途・目的や、衣服素材の性能について理解させる。	衣服の素材の種類・用途・目的、性能について実験によりまとめる。	2	②衣服の素材について考えようとしている。	①衣服の目的と衣服の素材とのかかわりを考えている。			ワークシート 学習態度 発表内容
					②実験結果から日常着の適切な選択について考え発表している。	①衣服素材の性能や各種加工法について理解している。		
3 衣生活の管理	衣服の選択・購入・管理の方法を知らせ、適切な衣服管理ができるようにさせる。	衣服の選択・購入・活用について知り、適切な手入れと衣服管理ができる。	4	③衣服の選択・購入・活用について関心をもっている。		②適切な衣生活の管理ができる。	②衣服の選択・購入・活用について表示の意味を理解している。	ワークシート 学習態度 課題レポート
					③洗濯事例を発表しあい、洗剤を適切に使用した洗濯の方法について考え発表している。	③洗剤の働きと汚れが落ちるしくみを科学的に理解している。		
4 衣生活と資源・環境	衣生活と資源・環境との関わりについて理解させる。	衣生活と資源・環境との関わりについて知り生活に生かすことができる。	1	④衣生活の文化や自分の衣生活を取り巻く状況について関心をもっている。	④資源の有効利用の観点から、自分の衣生活を見直し、再利用の方法を考えている。			ワークシート 学習態度
5 衣服を作ろう	衣服製作の基本について理解させる。	エプロンの製作ができる。	20	⑤基礎縫いの実習を通して正確で丁寧な作品作りに意欲的に取り組んでいる。	⑤効率よく作業を進めるための手立てを考え、計画的に作業している。	③基本的なミシン縫い、手縫いなどの縫製技術を身に付け正しく製作することができる。	④衣服製作の基本的な方法について理解している。	ワークシート 学習態度 作品製作
総時間数			28					

学習指導案

科目名	生活デザイン		
単元名	第3章 衣生活をつくる 3 衣生活の管理		
本時の主題	衣服の汚れと洗濯による管理		
指導観	衣服の汚れと洗剤の働きについて理解させ、洗濯による日常的な衣生活の管理ができる力を身に付けさせたい。		
本時の目標	洗濯における洗剤の界面活性剤の働きについて、実験を通して科学的に理解する。 日常生活における洗剤を適切に使用した洗濯の方法について考えている。		
	指導内容	生徒の学習活動	評価について
導入 5分	本時の目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> 洗剤の界面活性剤が汚れを落とす過程に関する実験をすることを確認する。 Xのビーカー：洗剤水、 Yのビーカー：水道水 	
展開 40分	界面活性剤の働き 1 浸透作用	<p>1 XとYのビーカーに毛糸を入れ毛糸が底に沈むまでの時間を比較する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> Xの毛糸はすぐに沈んだ。 Yの毛糸はなかなか沈まない。 	<p>評価規準</p> <p>【知識・理解③】 洗剤の界面活性剤の働きを科学的に理解している。</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート 授業態度</p> <p>〈Aの例〉 ・実験観察の結果をまとめながら4つの作用を理解している。</p> <p>〈Bを実現するための手立て〉 ・実験観察を日常の洗濯に置き換えて考えさせる。 〈Cへの手だて〉 ・洗剤を使用しない洗濯を想像させ、界面活性剤の働きに気付かせる。</p>
	2 乳化作用	<p>2 XとYのビーカーにサラダ油を入れたときの様子を観察する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> Xは白く濁る。 Yは油が浮いたまま混ざらない。 	
	3 分散作用	<p>3 XとYのビーカーにスス（汚れ）を入れたときの様子を観察する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> Xは水が黒くなりススが水中に混ざった。 Yはススが浮いたまま混ざらない。 	
	4 再付着防止作用	<p>4 XとYのビーカーに綿布を入れたときの汚れの付着具合を観察する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> Xは布にスス（汚れ）が付かない。 Yは布にスス（汚れ）が付く。 	
	洗剤実験のまとめ	<p>5 1～4の結果か洗剤に含まれる界面活性剤の働きについてまとめる。</p>	
まとめ 5分	洗濯の条件	<p>6 これまでの洗濯による成功と失敗体験について情報交換する。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗濯機を長く回したが汚れがきれいに落ちなかった。 洗濯をしたら衣服が縮んだ。 <p>洗濯による失敗事例の原因を考察し、適切な洗濯の条件を考えている。</p>	<p>評価規準</p> <p>【思考・判断・表現③】 洗濯事例を発表し合い洗剤を適切に使用した洗濯の方法について考え発表している。</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート 授業態度</p> <p>〈Aの例〉 ・洗濯における洗剤の他に、水温、洗い方等の条件による適切な洗濯方法についても考えている。</p> <p>〈Bを実現するための手立て〉 ・洗濯条件の違いによる洗濯の効果について考えたことを発表させる。</p> <p>〈Cへの手だて〉 ・洗濯の失敗事例について具体的にイメージさせる。</p>

□工夫している点

日常生活における家庭での洗濯体験を事前事後の課題にして、授業における実験実習とつなげるようにしている。
界面活性剤の簡単な実験を行い、効果的に適切に洗濯をする条件について理解できるようにしている。